



主張

時代の転換点にあつて果たすべき全日中の役割

山本 聖志

全国会員の皆様、明けましておめでとうございます。

今年は、新たな元号への移行が予定されており、平成で迎える最後のお正月といった話が、日本中で話題になっていることでしょう。新年の「始まり」にあたって「最後」を言葉にするのは、少々ためらいもありますが、三〇年の長きにわたり重責を担われ、自ら後継の道筋を決められた天皇陛下の御勇断に敬服いたします。

実は、私の勤務する東京都豊島区に学習院大学が立地することもあり、以前、皇太子殿下と会食を共にさせていただいたことがあります。殿下がピアノを演奏されることから毎年ごく親しい方たちが集つての会であつたと記憶していますが、当時、区の教育委員会に勤務していた関係で教育長ともども御招待をいただきました。カレライスとワインがメインのささやかなパーティでしたが、同席した誰もがほっとする空気に満ちあふれていました。一貫して国民と苦楽を共にされてきた天皇皇后両陛下。その姿勢を継承されようとする皇太子殿下の思いがうかがわれたような気がしました。元号が変わるといふ歴史的な出来事を会員の皆様と共にお祝いしたいと存じます。

さて、その二〇一九年はどんな年になるでしょうか。五六年振りに東京で開催されるオ



リンピック・パラリンピックをいよいよ翌年に控え、国内の機運は高まっていくに違いありません。しかし、主に興行面の都合とは言え、暑さを超えた「熱さ」対策が心配です。また、現在、中学校では、新学習指導要領の全面实施を二年後に控え、各学校とも準備に余念がないことと思いますが、教科化される道徳への対応はいかがでしょう。評価に戸惑いはないでしょうか。さらに、学校における働き方改革について国は、専門家スタッフや部活動指導員の拡充によって現場の負担減を図ろうとしています。果たして「ブラック」とも称される環境は軽減されていくでしょうか。

昭和から平成の時代にかけて世の中で何かが起こる度、教育への期待が謳われてきました。その結果、「〇〇教育」と称されるものの何と多いことでしょうか。本来ならば、政治や社会、家庭が請け負うべき役割を学校が担ってしまった結果、地域や保護者が果たすべき部分が機能低下に陥ってしまっている側面はないでしょうか。今後、AI（人工知能）が更なる進化を遂げると、今ある職業の半分がなくなると指摘する声もあります。しかしながら、これからの学習は、自ら学ぼうとする主体性やコミュニケーション、知識を応用して理解を深めることを必要としており、各学校はこれに応えなければなりません。

昨年十月、鳥取県米子市で行われた第六九回全日本中学校長会研究協議会には、一、〇〇人を超す全国会員が集い、中学校教育が抱える課題と解決の方途について熱心に協議が行われました。今後私たち全国の中学校長は「各都道府県中学校長会相互の緊密な協調」の下、「中学校教育の振興を図り、国家社会の発展に寄与」してまいろうではありませんか。

（全日本中学校長会会長・豊島区立千登世橋中学校長）